

## 「太宰治 友情・愛・青春」をテーマに 第6回学術講演会を開催

附属図書館主催の第6回学術講演会が、10月17日、弘前大学創立50周年記念会館において開催された。この催しは学生の学術研究に対する意識向上と地域社会への貢献など学術成果の普及を目的として、平成16年から毎年開催し、今年で6回目となる。今年には弘前大学の前身校の一つである官立弘前高等学校を卒業した太宰治の生誕百周年を記念して、『太宰治 友情・愛・青春』をテーマに開催した。

学術講演会は、教育学部附属中学校演劇部による「走れメロス」の朗読で幕を開け、続いて太宰治氏の長女の津島園子さんが「太宰をめぐる



特別講演 太宰治長女  
津島園子氏

る家族愛」と題した特別講演を行い、最後に、近代文学が専門で太宰の研究者として著名な東京大学大学院の安藤宏准教授が、「太宰治の表現世界」と題した学術講演を行った。

附属中学校演劇部の朗読では、「走れメロス」の感動的なクライマックスが28名の群読で読まれ、満場の喝采を浴びた。また、特別講演の津島園子さんは、「太宰治をめぐる家族愛」と題し、妻の美知子夫人が夫の太宰を作家として一人の人間としていかに深く理解し、真実の愛を捧

げたかについて、秘蔵の写真や資料をもとに講演した。学術講演の安藤准教授は、太宰作品の文体の特色に焦点を当て、作品の魅力や人気の秘密について講演した。

学生、市民など250名の参加者は講演に熱心に耳を傾け、太宰文学についての理解を深めた。  
(学術情報課長 酒井量基)



附属中学校演劇部による朗読  
「走れメロス」



学術講演 東京大学大学院  
准教授 安藤宏氏

## 太宰治生誕 100 周年記念展示



今年(平成21年)は太宰治生誕100周年ということで、博物館等での特別展、映画制作、関連書籍の出版など、全国的に太宰治が大きく取り上げられている。この機会に、太宰の母校たる当学でも太宰関係の資料を展示し、学生の皆さんに見ていただければどうかということで、「太宰治生誕100周年記念展示」を企画した。

太宰の入学前の肖像写真が貼ってある写真帖、在校時に執筆した小説が載っている新聞や雑誌、太宰の出席日数や教師によるコメントが記載されている学籍簿などを、6月17日から7月16日までの約一ヶ月間展示した。これらのうち写真帖や学籍簿は、世界に1つしかない貴重な資料であり、通常は貴重資料保管庫に収納されているため、直接目にする機会は少ないものである。

展示は終了したが、附属図書館2階には「太宰治研究文庫」というコーナーが常設されており、太宰関係の図書が集中的に配置されているので、こちらもぜひご利用いただきたい。

(情報サービスグループ係長 齋藤香織)

## 利用者対応研修を実施

9月9日、ビジネスマネジメントが専門の森樹男人文学部教授をアドバイザーに迎え、利用者対応の職員研修を実施した。この研修は、日常業務を客観的な視点から見直し、今まで気づかなかった課題や問題点を発見し、利用者対応の改善につなげることを目的としている。研修では、利用者対応の様々な状況を想定したグループ討議が行われた後、課題ごとにロールプレイングによる実習を行った。ロールプレイングの実習では、いくつかの改善点が発見され有意義な実習となった。

今後もこのような研修を通して利用者対応についてのスキルアップと情報共有を行い、利用者サービスの向上に活かしていきたい。  
(学術情報課長 酒井量基)



## 「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」特別試写会を開催



根岸監督(右)と山口准教授(左)のトークイベント

10月5日、第33回モントリオール世界映画祭で最優秀監督賞を受賞した根岸吉太郎監督(東北芸術工科大学教授)を迎え、トークイベントと受賞作品の「ヴィヨンの妻」の特別試写会を附属図書館主催で開催した。

会場の弘前大学創立五十周年記念会館には、学生・教職員ら300人が参加。上映に先立ち根岸監督と近現代文学が専門の山口徹人文学部准教授によるトークイベントが行われ、根岸監督は、「太宰が希望に満ちて入った学校で話すのは感無量」「この映画をきっかけに太宰の作品を読み直して、人生を豊かなものにしてほしい」と学生たちにメッセージを送った。

その後、学生から監督への花束贈呈と特別試写会が行われた。

「ヴィヨンの妻」は、太宰治原作の短編数本を基に、破滅的な生活を送る小説家の夫を持ちながら前向きな明るさを失わない妻の姿を描いた作品。本作品のヒロインである小説家の妻を松たか子さんが、太宰をモデルにした小説家を浅野忠信さんが演じている。(学術情報課長 酒井量基)

## 知の宝！古本市～リユース・ブックフェア～を開催

毎年恒例となった古本市を、今年も弘前大学総合文化祭期間中(10月23日～25日)開催した。図書館で不用となった図書を無料で差し上げ、再利用(リユース)していただくための企画であり、毎年好評を得ている。今年は比較的新しい図書を用意したためか、3日間で約6,000冊もの図書が引き取られていった。特に歴史学分野の図書や、辞書類は人気が高いようである。  
(雑誌情報担当 長谷川友紀)



## 電子ジャーナル ScienceDirect 講習会を開催

10月28日、文京地区と本町地区の2会場で、エルゼビア認定トレーナーであるゼファー・ビヨンド社の松山裕二氏を講師に迎え、電子ジャーナル ScienceDirect 講習会を開催した。ScienceDirect は、本学では概ね1998年以降から最新号まで約2,000誌の電子ジャーナルが利用可能である。

講習会の前半は画面例を見ながら説明を受け、後半は実際に自分でパソコンを操作しながらの実習となった。ユーザー登録の方法、アラート機能、論理式を使った検索方法、引用調査など、実際に役立つ利用方法を学んだ。

プロの講師による講習会ということで、文京地区20名、本町地区21名の参加者があった。附属図書館では、今後もこのような利用講習会を継続的に開催し、電子ジャーナルの利用をより一層広めたいと考えている。

(雑誌情報担当 長谷川友紀)



## 弘前大学出版会より新刊紹介

### 「官立弘前高等学校資料目録―北浜の学舎の資料群―」 弘前大学附属図書館編



本年(2009)、弘前大学は創立60周年を迎えた。本書を編集した附属図書館も開学と同時に開設されたので、60年の星霜を重ねたことになり、本書は開館60年を記念する一冊といってよかろう。附属図書館では、昨年、本学の所蔵されていた官立弘前高等学校の資料群の調査・整理作業を実施し、このたび弘前大学出版会から同資料目録として上梓した。本書は、目録類にありがちな無味乾燥な内容とせず、未公開の写真類を可能な限り掲載し、加えて同資料の評価や特徴等を論考として掲げて、読者の理解を助けるように工夫した。旧制の高等学校が閉校して60年、資料の散逸が心配されるなかで、官立弘前高等学校の学校資料を目録として集成した本書は、教育史、学校史を研究する上で必要不可欠な資料である。また、本年は太宰治生誕100周年でもあり、同資料中に見える太宰治(本名・津島修治)の関係資料は、文学の分野でも必ずや研究を前進させるに違いないと期待している。

(発行:2009年6月30日/定価3,990円)

### 弘大フックレット No.6 「まち育てのススメ」 北原啓司著

現代社会は、白いキャンバスに様々な夢を描き続けてきた「まちづくり」から、自分たちの資源を十分に活かすために多様な工夫や知恵を集めて何とかしようとする「まち育て」に変わりつつあるということ、著者が見聞きし、また自らが関わった豊富な事例を紹介しながらわかりやすく解説している。「まち育て」の主人公は、まちを「つくる」人ではなく、「たべる」人でなければならない。舌の肥えた生活者の眼差しや思いが活かされていく「まち育て」は、街なかに舞台(ハード)を次々と創りだしていくのではなく、物語(ソフト)を編集して、多様な出来事を誘発していくプロセスであるというこ

